医師会長エッセイ

ポラリスを仰ぐ北の大地から

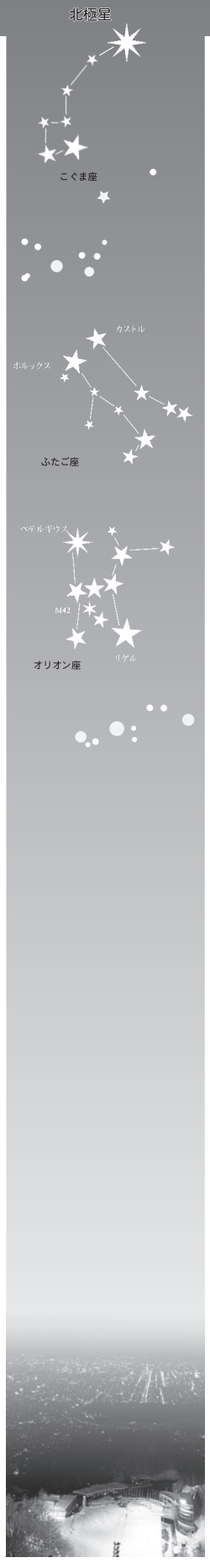
グルメ

室蘭市医師会 会長　村下十志文（むらした としふみ）

３×365×80＝87,600　寿命を80歳として、死ぬまでに食事をする回数を簡単に試算したものです。なぜ１日３食べなければならないのかと思うことがある。サプリメントを飲むだけで済む時代が来るのではないかと思っていたが、そのような研究はほとんどない。むしろ、調理法やマリアージュなど美味しく食べる工夫、最近は、健康に関する書物が多い。世のほとんどの生き物は、生きるため食べ、子孫を残すが、人間は違うようだ。

テレビでは、グルメ番組が多く食レポなるものも放送されるが、口に入れすぐに「美味しい」と発する場合も多く、閉口する。以前ラジオ番組で、ポテトチップスやカレーなど食べ比べの番組があったが、すぐにチャンネルを変えた。

40年ほど前、ロンドンに留学していたことがあるが、当時のイギリス料理は、お世辞にも美味しいと言えなかった。イギリスの格言に「食事を薬と思って食べること、でないと薬を食事のようにとらなければならなくなる」というのがあり、英国人もまずいと感じているのだと思った。また、「生きるために食べるべきで、食べるために生きてはならない」というのがあり、この格言の後に「働くために生きるな、幸せになるために働け」と続きます。一方、隣国フランスは、フレンチ料理として中華料理と世界２大料理といわれていました。「イギリスには二つのソースと三百の宗教があるが、フランスには二つの宗教しかないが、三百を超えるソースがある」と。食材をどう調理するか（日本でいう下ごしらえ）より、ソースで食べさせるという感じでした。フランスは、“食”を“芸術”と捉える傾向にあり、「食べることは必要性のあることだが、知的に食べることは芸術である」と。フランス政治家で食通でもあるブリア・サヴァランという人が、「何を食べているかを言ってみたまえ、君がどんな人かを言ってみせよう」と。



夢が叶いそう!?

留萌医師会 会長　三輪　英則（みわ ひでのり）

前回、モータースポーツを趣味としており2023年秋にマレーシアのセパンサーキットに遠征し軽自動車の24時間耐久レースに参戦したことを書かせていただきました。

以降、2024年に入り地元の草レースから富士チャンピオンシップレース、ロードスターパーティレース、マレーシアチャンピオンシップシリーズといった公式戦まで、北海道から参戦するにはただでさえハードルが高い中、素人が無謀にも虎の穴に飛び込んで様々なイベントで修行を重ねてきました。

なぜ仕事の合間に去年ここまでレースにのめり込んできたのかといえば、一つの自分の夢を叶えたいとの思いからでした。その夢とは「富士SUPER　TEC24時間耐久レース」に参戦すること。

これまでは職責として自分の余暇の多くをレースに捧げることはできませんでしたが、年齢的に挑戦するリミットが近づいてきたため去年を準備期間とし、なんとかして今年は夢を叶えたいと願ってきました。

そこにご縁がありSAKAE　MOTOR SPORTS様からお話をいただき、今年はスーパー耐久レースシリーズにフル参戦できるようになりました。責任重大ではありますが、少しでもチームに貢献できるよう全力で戦ってきたいと思っております。